◆整形外科　　部　長　西口雅彦

2017年8月から新しい骨密度検査機器を導入し、筋肉量を測定できる体組成検査を開始した。これにより生活習慣や加齢による筋肉の衰え（サルコペニア）を検査できるようになった。

整形外科では、運動器の障害のため移動機能の低下を来した状態を「ロコモティブシンドローム（略してロコモ）」と提唱している。

ロコモの原因には、運動習慣がない・痩せすぎ・肥満などの生活習慣、サルコペニア、膝や股関節、背骨の変形・骨折があり、特に重要な疾患は骨粗鬆症とそれに関連する脊椎・大腿骨近位部骨折、変形性関節症である。精度の高い骨密度測定器で、骨粗鬆症患者の病態や薬物治療効果を判定し、診療に役立ており、日本骨粗鬆症学会の認定医として、毎年同学会で発表・報告を行っている。

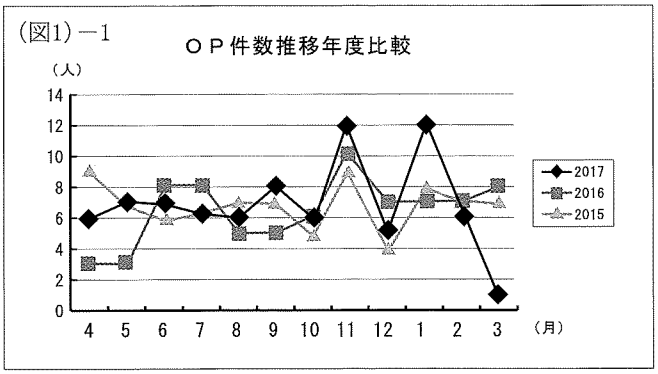
また変形性膝関節症に対しては、生活指導・薬物治療・関節注射を行い、必要に応じて手術（人工関節置換術）を行っている。

昨今、慢性疼痛や神経障害性疼痛患者も増加し、薬物治療の選択肢も増えてきているため、画像診断（ＭＲＩ）や血液検査で、患者の病態把握や、炎症や腎機能を評価し、ＮＳＡＩＤ以外に、プレガバリン、オピオイド、トラマドール、デュロキセチン、漢方薬などの薬物治療や注射等で治療に取り組んでいる。

2017年度も整形外科は常勤医師1名で診療を行った。当科では週3回の外来を行っており、外来の延患者数は8,738名(図2)、入院延患者数は8,994名であった。(図3) 入院患者の主な疾患は大腿骨骨折・胸腰椎圧迫骨折が例年同様多数を占めており、前年度よりも増加した。上肢や下肢骨折の患者は前年度並みであった。

次年度も地域唯一の整形外科として、充実した医療を提供できるよう取り組んでいく。

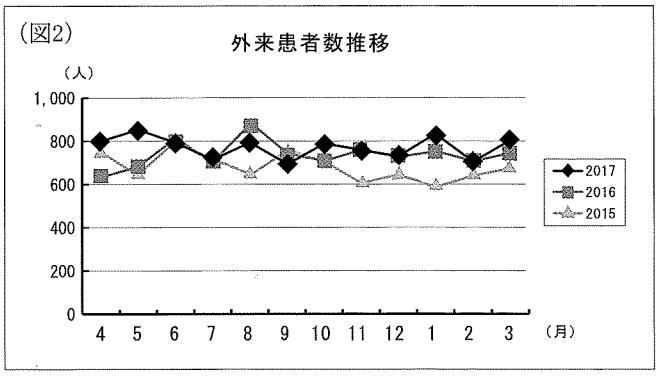
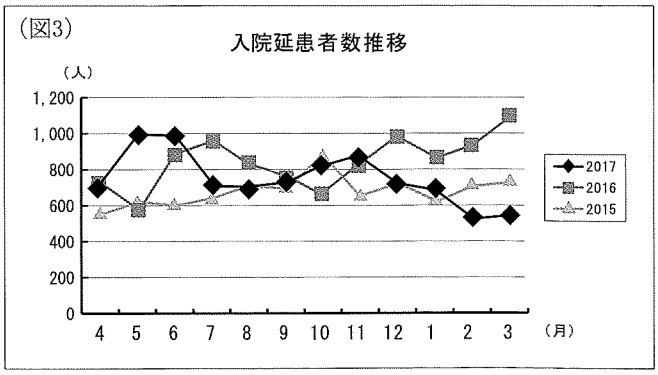
(図1)－1



(図1)－2　主な手術件数月別推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
観血的骨接合術	4	2	2	3	3	3	4	5	3	6	5		40
四肢切断術		1	1		1				1	1		1	6
人工膝関節置換術(TKA)		1		1		1		1					4
抜釘術		1				1		1		1			4
人工骨頭置換術		1		1	1				1				4
腱鞘切開術	1			1						2			4
手根開放術	1		1					1					3
軟部腫瘍摘出術						1		1		1			3
徒手整復							2						2
鏡視下半月板切除		1	1										2
その他			2		1	2		3		1	1		10
合計	6	7	7	6	6	8	6	12	5	12	6	1	82

(図2)



(図3)